

令和4年度 学校経営計画

1 学校教育目標

校訓である五稜の精神「真・徳・美・知・体」に則った調和のある豊かな人間性の育成を教育目標として掲げ、その達成のために、次の4点を基本方針とする。

- (1)主体的に学びに向かう力を育成します。
- (2)地域連携やボランティア活動を通じて、地域や社会に貢献できる人材を育成します。
- (3)芸術・文化やスポーツに親しみ、心身ともに健康な生徒を育成します。
- (4)国際交流や地域社会との交流を通じて、コミュニケーション能力を育成します。

2 学校の特色

本校は、今年度で創立95年を迎える、普通科と商業科からなる総合制の高校である。生徒の通学区域は、射水市が最も多く、次いで高岡市、その他の市となっている。生徒の気質は明るく、素直であり、学習活動、部活動、生徒会活動などの実践に真面目に取り組んでいる。また、本校は、オーストラリアのノーブルパーク校との姉妹校提携により、これまで20回の相互訪問を実施しており、国際交流推進のため、射水市とも積極的に連携を図っている。

平成25年度普通科入学生より、2年次から文系・英語系・理系の類型別選択制を導入した。英語系では特色ある学習や行事をとおして、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力を兼ね備えた人材の育成を図っている。商業科においては、資格取得を推進するとともに、地域の実情や課題に対する解決策を考察し、地域社会の活性化に向けて主体的に行動する態度の育成に努めている。

3 学校の現状と課題

本校は「五稜の精神」に基づく人づくりを目指しており、教育活動全体をとおして、意欲をもって主体的に学び、生き生きと学校生活に取り組む生徒の育成に努めている。

学習面では、学習指導の充実や家庭での学習習慣の定着を重視している。教員の授業技術の向上を図ることにより、生徒の主体的な学習への取り組みを進め、理解を深める必要がある。

進路指導面では、面接を重視し、一人ひとりに応じた支援を行うことで、早期に具体的な進路目標を設定し、目標達成に向けた自主的な学びに結びつける必要がある。

生活面では、家庭と連携して、規範意識や時間厳守など基本的生活習慣の定着を図ることによって、自己管理能力を身につけさせることが求められる。

また、生徒の主体性を育てる学校行事や部活動等を推進し、学校生活に意欲をもって積極的に取り組む生徒を育てる必要がある。

4 学校教育計画

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
1	学習活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の学習意欲を喚起する授業を研究し、主体的に学習に取り組む態度の育成を目指す。 ○普通科・商業科の特色を活かしながら、進路希望の多様化に対応した学習指導を行う。 ○社会の変化や国際化・情報化に対応するため、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力、情報処理能力を備えた人材を育成するとともに、個性を生かした教育の充実に努める。
	重点1①②	計画	<ul style="list-style-type: none"> ○①授業研究や生徒の学習への取組改善の達成度、授業への主体的取組度に関するアンケート分析をとおして、授業技術の向上を図り、効果的な学習指導や評価方法を研究する。 ○②商業科においては主体的な学びをとおし、地域の人材や企業と連携する学習を展開する。 ○グループディスカッションやペアワーク等アクティブ・ラーニングの視点を取り入れたり、タブレットなどのICT機器を取り入れることで、思考力・判断力・表現力を育てるための指導法、協働して学ぶ態度を育てる指導法を研究する。 ○観点別学習達成度目標を生徒の学習改善につなげる。 ○普通科英語系の課題研究型授業や英語合宿など、各類型で特色ある取り組みを行う。 ○商業科では、資格取得を推進し、進路実現につなげる。
2	学校生活	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりの人格を尊重しながら、規範意識の向上やマナーを遵守する態度を養い、社会に適応できる心豊かな生徒を育成する。 ○健康診断や教育相談をとおして生徒の心身の健康保持・増進を図るとともに、自主的健康管理能力を育成する。
	重点2①②	計画	<ul style="list-style-type: none"> ○①生徒指導方針について、生徒・保護者・教職員の共通理解を図ることで、生徒の規範意識の向上と基本的生活習慣の確立を目指す。 ○②生徒会や自律委員会を中心に、通信機器の使用に関するルールを守るための話し合いを行うなどの取り組みにより、生徒の自覚ある行動を促す。 ○通信機器の使い方、あいさつ、交通ルールの遵守等に関して、生徒が主体となり取り組む。 ○交通安全指導や携帯電話・インターネットの利用等のマナー講習、薬物乱用防止に関する講習をとおして、危機管理意識を養う。 ○生活規範について統一ホームルームで話し合うなど、クラスや学年全体で考えることで、規範意識の醸成に努める。 ○保護者と連携しながら、保健指導の充実や生活習慣の改善に努める。 ○生徒委員会の自主的・積極的活動を推進し、健康と美化意識の向上と行動の習慣化を図る。

3	進路支援	目標	○生徒が自らの在り方、生き方を考え、主体的に進路を選択することができるように、教育活動全体をとおして計画的、組織的な進路指導を行う。
	重点1①②	計画	○① 目的意識の涵養と将来の職業人としての自覚や責任感を高めるためのキャリアガイダンス（職業研究、学部学科研究、模擬授業）や進路講話などを充実させることで、進路意識の高揚を図る。 ○② 各学期初めに面接週間を設定し、担任との個別面接をとおして進路意識の向上を支援する。 ○進路指導部を中心とした進路情報や課題等を共有する体制を確立し、個々の生徒の適性にかなった的確な情報を提供するとともに、徹底した個別指導を行い、目標達成を目指す。 ○朝時間や家庭課題を充実させ、主体的・意欲的に学習に取り組む体制を整えることで、学習意欲の向上につなげる。 ○インターンシップ事業のより効果的な推進を図る。
4	特別活動	目標	○ホームルーム活動、学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動などをとおして学校生活が一層充実したものになるよう働きかけるとともに、これらの活動が、生徒が自ら「学び」、自ら「鍛える」場となるよう工夫する。 ○学年や教科との連携により、図書館利用を促進し、生徒の読書量の増加を図る。委員会の自主的積極的活動を推進し、学校図書館への関心を高める。 ○オーストラリア姉妹校との交流活動等を通じ、豊かな国際感覚を養う。
	重点2①②	計画	○① 1年生の全員部活動制に続いて、2・3年生にも参加を継続するよう呼びかけるとともに、部活動において生徒が充実感を得られるような取り組みを展開する。 ○② 計画的なホームルーム活動や生徒の主体性を重視した生徒会活動・部活動を推進する。また、地域に貢献するボランティア活動などをとおして、生徒の社会性や協調性を育てる。 ○朝読書をとおして読書指導の充実を図る。また教養講座などの委員会活動をとおして生徒の主体性を育成し、読書意識の向上を目指す。 ○姉妹校等との交流学习や国際交流をとおして、生徒同士が互いの国の歴史や文化について、理解を深める。
5	その他	目標	○PTA・同窓会・学校評議員会との連携を密にして、本校教育活動に対する関心を高めるとともに、理解と協力を得る。
		計画	○PTA 研修会、保護者懇談会、学校評議員会等をとおして情報提供を行うとともに、本校教育活動が一層充実するよう努める。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和4年度 新湊高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業技術の向上と生徒の自ら学び考える力の育成 ・進路意識の高揚
重点課題	生徒が自主的に学習に取り組む習慣を身につけるため、授業の質の向上に積極的に取り組む。また、個々の目標に応じた適切な進路指導を実践し、自己実現を目指す。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・互見授業期間を設定し、教員が相互に授業を公開し意見交換している。また、授業においてグループ・ディスカッションやペア・ワーク等のアクティブラーニングの視点を取り入れたり、タブレットなどのICT機器を取り入れたりすることで、思考力・判断力・表現力を育てる授業や主体性を持って多様な人々と協働して学べる態度を育てる授業等の指導法の工夫に努めてきた。 ・令和4年度入学生から、年間授業計画において観点別の学習の達成度目標を生徒に提示し、個々人の学習改善につなげられるようにしている。 ・具体的な進路目標を見つけ、目標に向けた主体的・計画的な学習に結びつける必要がある。また、困難な課題に直面したときに、安易な選択をしがちなので、より高い目標に自ら挑戦するよう進路意識を高める必要がある。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究の実施 一人2回以上の見学 (他教科の授業を1回以上見学) ・生徒の学習への取組改善の達成度 生徒の授業への主体的取り組み度 70%以上 <ul style="list-style-type: none"> ・1学年：志望する学部や職種が定まっている割合 85% (1月時点) ・2学年：具体的な志望校、業種がいくつか決まっている割合 85% (1月時点) ・3学年：進路決定者の割合 98% (3月末時点) ・生徒一人当たりの年間面接回数 1・2学年 4回以上 3学年 5回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を互いに参観する機会を設け、2回以上参観する。また、他教科の授業を1回以上参観する。 ・授業検討方法として授業参観メモの記入、時系列での授業分析を行う授業検討会を実施する。 ・授業研究における指導計画にアクティブ・ラーニングの視点に立った活動やICT機器の効果的利用をした授業を取り入れ、学習の効果を高める。 ・1、2学期末に、生徒アンケートを実施。結果を分析し、教科部会等で評価方法や指導法を検討する。 ・進路指導部及び学年と連携し、考査、模試、検定試験、学びの基礎診断などを実施したあと個々の生徒や学年全体の結果分析を行い、学力向上に結びつく指導方法について検討する。 ・生徒の学習状況を踏まえ、令和5年度2学年用の年間授業計画表を作成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・進路意識の向上を支援する強化期間として面接週間を各学期初めの月に3回設定する。 ・HRや総合的な探究の時間における進路学習や進学講話、進路ガイダンス、オンラインでのオープンキャンパスへの参加やHP等による情報収集の推進、キャリアガイダンス(職業研究、学部学科研究、模擬授業)、大学研究、大学入試研究、進路研修旅行(大学訪問)、インターンシップ、土曜学習会など様々な取り組みを実施し、進路意識の高揚を図る。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)

重点項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上 ・ 主体性を育む特別活動 	
重点課題	<p>基本的生活習慣の確立と携帯通信機器使用におけるモラルの向上を目指す。部活動の充実化を図るとともに、行事等への参加をとおして学校生活に主体的、積極的に取り組む態度を育成する。</p>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「8時25分までには登校する」という指導をしているが、しっかり守れない者がまだ多い。基本的生活習慣を確立し、時間に余裕を持って行動するといった意識を高める必要がある。 ・ 携帯通信機器使用において、誹謗・中傷を受ける被害がある。加害者にも被害者にもならないように、使用マナーについて常に指導している。 ・ 生徒会行事に積極的に参加する生徒は多いが、行事の企画・運営については生徒会執行部や教員が主体となりがちで、生徒一人ひとりの関わりは少ない。 ・ 昨年度は部活動をとおして自分を成長させることができたと感じている生徒は87%と多かったが、3年生の部活動継続率は67%と例年より低くなった。 ・ 文化部の受賞が増え受賞件数は目標を達成しているが、運動部は受賞する部活動が固定化している。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無断遅刻者の人数 1日平均0.5人未満 ・ 通信機器に関するマナー違反件数 年間5件以内 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会行事に自主的かつ積極的に参加したと感ずることが出来る生徒の割合 80%以上 ・ 奉仕活動や校外ボランティア活動を年2回以上実施した部の割合 50%以上 ・ 各種大会やコンクールで受賞した件数 150件以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「8時25分までには教室に入る。」という指導に変更し、授業の準備を行うという意識を高める。また、遅刻常習生徒に対しては、家庭との連携を密にし、粘り強く指導する。 ・ 生徒会や自律委員会を中心に、携帯通信機器におけるマナーやモラルの意識を高める。 ・ 生徒会のテーマに沿った企画を委員会や学年、学級、部活動等に立案させる。 ・ 各種行事における個や集団の役割を理解させ、主体性や積極性を高める。 ・ 生徒会執行部がボランティア活動を推進するとともに、各部活動でもボランティア活動を計画したり実施したりして部活動との関わりを深めることで、部活動の充実度や継続率を高める。 ・ 生徒の主体性、積極性や技能向上、活動の効率化を目指し、それぞれの部活動の整備充実化を図る。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)